令和７年度

一般社団法人 燃料電池開発情報センター 総会

資料

令和７年９月 10 日（水）

連合会館

一般社団法人 燃料電池開発情報センター

東京都千代田区神田淡路町一丁目１９番地（お茶の水ビジネスビル １階）

電話　03－6206－0231

令和７年度（一社）燃料電池開発情報センター

定時総会議案　目次

第１号議案　令和６年度事業報告の件

第２号議案　令和７年度事業計画の件

第３号議案　役員選任の件

第１号議案

令和６年度事業報告

自 令和　６年 ７月　１日
至 令和　７年 ６月３０日

燃料電池開発情報センターは、1985年から旧通商産業省工業技術院の燃料電池担当開発官らにより燃料電池の開発・普及に向けた組織づくりが進められ、1986年にNEDO、電力会社、電機メーカーなどの協力の下に「燃料電池開発情報センター」が発足した。初代代表は、三井恒夫東京電力（株）当時常務取締役に就任いただき、会員数78機関で、暫定的に旧工業技術院内に事務所を設けスタートした。来年2026年は丁度設立40周年にあたるため、来年１月29日には、設立40周年事業を計画している。その間、第2代代表は片岡宏文東京ガス（株）当時最高顧問が、第3代代表は太田健一郎横浜国立大学名誉教授が、そして昨年からは岡崎健東京科学大学名誉教授が第４代代表を務めている。昨今は、燃料電池のみならず、世界的に注目を集めている水電解などの水素製造や水素キャリアなどの水素エネルギーに関する情報発信も多く手掛けている。

さて、トランプ政権発足後、米国は地球温暖化対策の国際的枠組みである「パリ協定」からの再離脱を表明した。しかしながら、一方で全米24州の知事が参加する「米国気候同盟」は、パリ協定の目標達成に向けた米国の取組を継続することを発表しており、機関投資家や企業などの多くも政権に関わらず温暖化対策を進めることを表明している。

また、欧州ではウクライナ問題を契機として、脱ロシアの観点から電化と脱炭素電源の導入が推進されており、水素を含むグリーン産業支援を強化する方針や政策が発信されている。水素インフラ整備計画では、天然ガス網の水素パイプラインへの転用も含めて、2030年までに3.3万km、2040年までに6万kmの水素パイプライン整備が計画されている。

一方で、中東、インド、チリ、オーストラリア等の潜在的に再生可能エネルギー資源を持つ諸国は、この機を逆手にとって水素輸出国を目指す動きが活発化しており、新たなエネルギーとしての水素をめぐる各国のそれぞれの思惑と強い本気度が感じられる。

このような国際環境の中、FCDIC では、５月のシンポジウムにおいて、ヨーロッパ・アメリカ・中国・インドに加えて国内の燃料電池・水素に関わる最新動向を NEDO 様・METI 様から特別講演頂き、世界ではエネルギー転換に向けた大きな動きがあることが報じられ、強い関心が寄せられた。

今後、FCDICにおいても脱化石燃料に向けた世界的な潮流を受けて、会員ニーズに基づいた燃料電池・水素の情報収集や発信を積極的に行い、燃料電池・水素の更なる普及拡大を目指した研究会など、新たな取り組みを実施していきたい。

以下、1 年間の活動報告を記す。

会員数は､正会員､学術会員で入退会による増減があり､減少は9機関(名)であったが、学術会員で5機関（名）の増加があり、トータルでは4機関の減少であった。

総会、理事会、幹事会、並びに研究会、見学会、講習会、シンポジウム、各種広報出版などの定常的な事業活動は､ほぼ予定通り実施出来たが、新型コロナウイルス感染拡大以降、見学会と交流会を伴う研究会（講演会）を除く活動のほとんどは、対面とリモートとの併催で対応してきた。FCDIC最大の行事である5月のシンポジウムについても、口頭発表については、対面とリモートの併催で実施した。

令和６年度決算については、収入総額はほぼ予算通りであった。また、支出面は水素エネルギー協会（HESS）と共催した HYPOTHESIS 2024（2024 年７月 14 日～18 日、広島国際会議場）において予想より参加者数が少なかったことから損失が発生し、HESS と損失を共同で補填したため 4,300,000 円の雑損失が発生した。一方で、支出削減努力により、雑損失を含めて予算に対して 921,593 円の支出増であり、結果的に本年度収支は 1,454,791 円の赤字決算であった。これに伴い、翌年度繰越収支差額は 64,523,821 円となった。

以下に令和6年度の各活動の概要を報告する。

第１号議案

Ⅰ 会員数

	令和5年度末 （令和5年6月30日現在）				令和6年度末 （令和7年6月30日現在）
		入会	退会	増減差	
正会員	92（90）	0	2	-2	90（88）
公共会員	1	0	0	0	1
学術会員	79	5	7	-2	77
海外会員	3	0	0	0	3
特別会員	8	0	0	0	8
合計	183（181）	5	9	-4	179（177）

注１）カッコ内は会費を納めている会員数。相互に団体加入あるいは相互に情報交換等の契約で、正会員2機関が会費免除。

注２）海外会員の会員期間は毎年1月～12月。

Ⅱ 活動状況

1　開催行事

1.1 研究会の開催

下記2回の講演会、2回の見学会を実施した。

①　第173回研究会（講演会）：令和6年9月17日（火）、総会・理事会・交流会と併催

・場所：連合会館 203・204 会議室（対面で実施）

・講師：「欧州PFAS規制の最新動向」　日本フルオロケミカルプロダクト協議会　松岡 康彦　氏

「東京オリパラの聖火台について」　トヨタ自動車（株）　沼田　泰　氏

・参加者：63 名

②　第 174 回研究会（見学会）：令和 6 年 8 月 28 日（水）

・見学場所：ENEOS（株）根岸製油所・中央技術研究所

・参加者：28 名（定員：30 名）

③　第 175 回研究会（講演会）：令和 7 年 1 月 28 日（火）、理事会・賀詞交歓会と併催

・場所：連合会館 203・204 会議室

・講師：「金融機関から見た水素エネルギー業界の動向とみずほ銀行の取り組み」

みずほ銀行　高橋 興道 氏

「世界の燃料電池・水素の最新動向」　NEDO　坂　秀憲 氏

・参加者：67 名

④　第 176 回研究会（見学会）：令和 7 年 5 月 28 日（水）

・見学場所：JARI 城里テストセンター

・参加者：18 名（定員：20 名）

1.2 セミナー･講習会の実施

下記のセミナーおよび講習会を実施した。

①　第 40 回セミナー：令和 6 年 11 月 13 日（水）10:00～18:00（但し 17:00～18:00 は名刺交換会）

・場所：タワーホール船堀 5F 小ホールでの対面とリモートとのハイブリッド開催

・講師：

⑴「水電解に関する最近の世界動向」　みずほリサーチ&テクノロジーズ（株）　米田 雅一 氏

⑵「水素技術研究開発の取り組みと展開状況」　FCCJ 要素・基盤技術 WG　雨宮 一樹 氏

⑶「水素を取り巻く世界の動きと日本における再エネ及び水素を活用した低炭素基本インフラの提案」

（株）HyWealth　広瀬　雄彦 氏　（九州大学 I2CNER）

⑷「GteX グリーン水素製造用革新的水電解システムの開発」　東京大学　高鍋 和広 先生

⑸「革新水素貯蔵材料の開発に向けて」　東北大学　折茂 慎一 先生

⑹「GteX 革新的材料による次世代燃料電池システムの構築」　同志社大学　稲葉 稔 先生

・参加者：95 名（会場参加：44 名）
②　第 38 回寺子屋式講習会　令和６年 12 月４日（水）10:00～16:00
・場所：連合会館 201 会議室（ハイブリッド開催）
・講師：PEFC 基礎（横国大 石原先生）、SOFC 基礎（産総研 石山氏）、
燃料電池に関する特許の重要性（特許庁 太田氏）、概要（FCDIC 羽藤）
・参加者：35 名（経産省から１名、文科省から１名が参加）
③　第 39 回寺子屋式講習会：令和７年６月４日（水）10:00～16:00
・場所：連合会館 201 会議室、組み立て実習ありのため対面のみで開催
・講師：PEFC 基礎（横国大　石原先生）、SOFC 基礎（産総研　石山氏）、概要（FCDIC　羽藤）
・参加人数：28 名（文科省から２名が参加）

1.3 燃料電池シンポジウムの開催
第 32 回燃料電池シンポジウムは５月 22（木）～23 日（金）の日程で、タワーホール船堀において開催した。口頭発表については、会場とオンラインのハイブリッドで開催し、ポスター発表については１階展示会場のみで開催した。
①　参加者：約 400 名
交流会参加者：約 130 名
②　口頭発表
・特別講演 ５件：NEDO 海外事務所からインド・中国・米国・欧州の最新動向と、METI から日本の戦略についての特別講演
・受賞講演１件：奨励賞１件
・HESS 連携セッション４件：水電解関連
・依頼講演 10 件：PEFC 要素技術３件、PCFC 要素技術１件、移動体２件、定置用２件、関西万博関連：２件
・応募講演：27 件（若手招待講演３件および製品紹介３件含む）

1.4 交流会､賀詞交換会の開催
令和6年9月17日の総会時に交流会､令和7年1月28日に賀詞交歓会を開催し､会員相互の懇親､情報交換を図った。

2　広報･出版

2.1 機関誌｢燃料電池｣の発行
機関紙「燃料電池」を季毎に４回発行して配布し、その時々の燃料電池の最新技術を会員に紹介した。以下に各号の特集および頁数を記す。
・「燃料電池」夏号 Vol.24 No.1、2024 特集「燃料電池の多用途展開」79 頁
・「燃料電池」秋号 Vol.24 No.2、2024 特集「水素供給網」65 頁
・「燃料電池」冬号 Vol.24 No.3、2025 特集「日本のグリーン成長戦略に関する産学官の取り組み」91 頁
・「燃料電池」春号 Vol.24 No.4、2025 特集「燃料電池及び水電解に関する解析・評価Ⅰ」85 頁

2.2「FCDIC Report」の発行
海外会員向けには「FCDIC Report」を隔月にメール配信し、FCDICホームページにも掲載した。

2.3 年報の発行
2024 年度版年報「日本における燃料電池の開発」（173 頁）を和文と英文で一冊に集約して発行した。内容は、日本の燃料電池開発状況概観、燃料電池における国家プロジェクトの現状、各業界・特別会員・公共会員の活動状況、各機関の開発・活動状況の他、会員の発表論文一覧、FCDIC の主な活動、FCDIC 会員名簿、および国際標準化、水素ステーション情報、燃料電池用語集からなる資料編で構成した。発行は WEB サイトから PDF をダウンロードする形式であり、外販も行っている。

第１号議案

2.4 FCDIC ウェブサイト

令和5年2月からFCDICのホームページをより多くの方々に閲覧頂けることを目指して、より分かりやすくかつシンプルにリニューアルした。燃料電池に関連するシンポジウム、セミナー、機関誌、FCDIC Report、研究会などを適宜項目毎に分割して情報を発信している。また、下に述べる「夢の燃料電池10」作業部会からの情報発信と、燃料電池・水素に関わる「よろず相談窓口」を新規に開設した。

2.5 展示会出展

H2&FC EXPO 2024秋と2025春において、ブースにて展示を行い､FCDIC の活動を広く一般に広報した｡また、春のEXPOでは、5月のFCDICシンポジウムの広報のため、プログラムの配布等を実施した。

3　「夢の燃料電池１０」WG活動（50 年後の燃料電池を考えるWG活動から名称変更）

夢の燃料電池の姿（燃料電池を利用する上での水素を含む）をリストアップし、FCDIC のホームページで公開し、このリストを多くの研究者に参考いただくと共に、今後の研究開発の参考としていただくこととした。

また、キャッチーな「夢の燃料電池」を表すネーミングと、そのネーミングの意図を解説し、更に夢を達成するために必要と思われる技術を掲載し、ブレークダウンが必要と思われる技術については、更に技術の内容を記載・解説した。

＜ネーミング＞

① エンジンより安い燃料電池（移動体用及び定置用）
② 燃料電池豪華客船で世界一周（本来スケールメリットがないことが燃料電池の特徴であるが、例えばGW以上の大容量でもエンジンよりコンパクトな超高エネルギー密度を実現する燃料電池）
③ どこでも使える燃料電池（極地や高山や温泉地、臨海地域でも使える）
④ ずっと使える燃料電池
⑤ どんな燃料でも使える燃料電池（アンモニア、炭化水素系燃料等を直接燃料として利用できる燃料電池）
⑥ 給湯器より安いエネファーム
⑦ リサイクルできる燃料電池
⑧ どんな燃料より安いグリーン水素

以上の案に対し広く意見を募集して、これを基に内容を充実していくため今後のWG活動を実施する。

4　共催･協賛･後援

以下に承認した共催･協賛･後援行事を列挙する。

令和6年7月1日～令和7年6月30日にご依頼をいただいたイベント等を掲載している。開催日は令和6年度とは限らない。

＜共催＞

第 15 回新電極触媒シンポジウム&宿泊セミナー
主催：一般社団法人触媒学会 燃料電池関連触媒研究会
開催日：2024 年 10 月 25 日(金) ～ 10 月 26 日(土)
場所：東レ総合研修センター

第 16 回新電極触媒シンポジウム&宿泊セミナー
主催：一般社団法人触媒学会 燃料電池関連触媒研究会
開催日：2025 年 10 月 31 日(金) ～ 11 月 1 日(土)
場所：東レ総合研修センター

「H2 & FC EXPO【国際】水素・燃料電池展【秋】」
「H2 & FC EXPO【国際】水素・燃料電池展【春】」
主催：RX Japan 株式会社
開催日：2025 年 9 月 17 日（水）～9 月 19 日（金）「H2 & FC EXPO【国際】水素・燃料電池展【秋】」

第１号議案

2026年3月17日（火）～3月19日（木）「H2 & FC EXPO【国際】水素・燃料電池展【春】」
場所：幕張メッセ（H2 & FC EXPO【国際】水素・燃料電池展【秋】）
東京ビッグサイト（H2 & FC EXPO【国際】水素・燃料電池展【春】）

＜協賛＞

エネルギー技術対策委員会　主催講演会「日本における将来のエネルギーのあり方」
主催：一般財団法人大阪科学技術センター エネルギー技術対策委員会
開催日：2024年11月26日（火）
場所：大阪科学技術センター4階401号室（会場、WEB配信（zoom）のハイブリッド形式）

第44回水素エネルギー協会（HESS）大会
主催：一般社団法人水素エネルギー協会
開催日：2024年12月5日（木）～12月6日（金）
場所：ハイブリッド（対面会場：タワーホール船堀小ホール）

第33回SOFC研究発表会
主催：SOFC研究会
開催日：2024年12月19日（木）～12月20日（金）
場所：ビジョンセンター東京　京橋

水素・燃料電池部会　2024年度公開シンポジウム
主催：一般財団法人大阪科学技術センター　水素・燃料電池部会
開催日：2025年1月16日（木）
場所：大阪科学技術センター4F　401会議室およびオンライン（Zoom）

第19回再生可能エネルギー世界展示会＆フォーラム（略称 RE2025）
主催：特定非営利活動法人再生可能エネルギー協議会
開催日：【展示会】2025年1月29日（水）～1月31日（金）
【フォーラム】2025年1月20日（月）～1月28日（火）
場所：【展示会】東京ビッグサイト　東ホール
【フォーラム】オンライン

2025年関東支部セミナー　1から学ぶ電気化学のいろは（原理からアプリケーションまで）
主催：公益社団法人電気化学会 関東支部
開催日：2025年5月15日（木）
場所：慶応義塾大学日吉キャンパスおよびオンライン

第7回電動車両技術国際会議（EVTeC2025）
主催：公益社団法人自動車技術会
開催日：2025年5月19日（月）～5月21日（水）
場所：パシフィコ横浜

第66回電池討論会
主催：公益社団法人電気化学会　電池技術委員会
開催日：2025年11月18日（火）～11月20日（木）
場所：ウインクあいち

＜後援＞

HYDROGENIUS Symposium 2024
主催：九州大学　水素材料先端科学研究センター

第１号議案

開催日：2024年9月12日（木）～9月13日（金）
場所：九州大学伊都キャンパス　椎木講堂

ドイツ自動車産業　燃料電池技術シンポジウム2024
主催：ドイツ連邦経済・気候保護省
開催日：2024年11月12日（火）
場所：虎ノ門ヒルズフォーラム

日独水素専門家ワークショップ　水素インフラと港湾地域の展望
-アンモニア、液体水素、LOHC、MCH、etc を含む
主催：日独エネルギーパートナーシップ・チーム
開催日：2025年2月18日（火）
場所：AP新橋（イベント会場　3階B、ネットワーキング5階I）

課題解決EXPO2025　エコテクノ2025　～地球環境ソリューション展/エネルギー先端技術展～（第30回）
主催：福岡県、北九州市、公益財団法人北九州観光コンベンション協会
開催日：2025年7月2日（水）～7月4日（金）
場所：西日本総合展示場　新館・本館中展示場

＜協力＞

特許庁任期付職員（特許審査官補）の採用について
募集元：特許庁
応募締切日：2024年11月5日（火）17：00受信有効

「H2 POWER WORLD OSAKA【関西】水素エネルギーワールド」
主催：RX Japan株式会社
開催日：2004年11月20日（水）～11月22日（金）
場所：インテックス大阪

エネルギー総合工学研究所　第443回月例研究会
主催：一般財団法人エネルギー総合工学研究所
開催日：2024年11月21日（木）
場所：Cisco Webex Webinarsによるオンライン開催

Networking Reception - Swiss Pavilion at H2 & FC Expo 2025
主催：在日スイス大使館
開催日：2025年2月20日（木）
場所：スイス大使公邸

ホワイト水素研究会 －究極のクリーンエネルギーの可能性を探る－
主催：名古屋大学未来社会創造機構、名古屋大学大学院環境学研究科
開催日：2025年3月11日（火）
場所：名古屋大学東山キャンパス　NIC棟1F　Idea Stoa

公益信託ENEOS水素基金2025年度
募集元：三井住友信託銀行株式会社
申請受付期間：2025年4月1日（火）～5月9日（金）必着

第１号議案

5　顕彰制度

産業貢献賞、学術賞および奨励賞について、令和6年7月～8月に募集を行った。選考委員会での審議結果に基づき、幹事会および理事会で了承が得られ、受賞者は以下の通りとなった。第32回燃料電池シンポジウムにおいて、表彰式および受賞記念講演を実施した。

1. 奨励賞

・業績題目：「電解質膜を舞台にした機能性高分子インフォマティクスの構築」：
　受賞者　：九州大学　加藤幸一郎　氏（学術会員）

Ⅲ 決算の概要

令和6年度については、会費収入はほぼ維持するとともに、シンポジウム等イベントの参加費収入は目標値を設定して積み上げた結果、予算収入を36,650,500円とした。一方、支出については引き続き活発な活動を維持することとして、前年度の予算をベース に検討を行い、37,170,000円とし、519,500円の赤字予算とした。

以下、実績について説明する。

まず収入については、会費収入はほぼ予算通りであった。イベント等の参加費収入については、シンポジウムの参加人数が昨年よりやや減少したが、雑収入が増収した。その結果、令和6年度の収入予算額36,650,500円に対し、収入の決算額が36,636,802円となり、収入については令和6年度予算額に対し、13,698円の減収となった。

一方､支出については、水素エネルギー協会（HESS）と共催したHYPOTHESIS 2024（2024年7月14日～18日、広島国際会議場）において予想より参加者数が少なかったことから損失が発生し、HESS と損失を共同で補填したため 4,300,000 円の雑損失が発生した。一方で、交流会等の飲食費の最適化や会議室費用の支出削減努力により、雑損失を含めて予算に対して921,593円の支出増となり、令和6年度の支出予算額37,170,000円に対し、決算支出合計は38,091,593円となった。

結果的に本年度収支は1,454,791円の赤字決算であった。これに伴い、翌年度繰越収支差額は63,588,530円となった。

令和6年度決算案を別紙に示す。

令和6年度決算報告書

自　令和6年7月 1日
至　令和7年6月30日

正味財産増減計算書

（単位：円）

項　　目	予算額	決算額	備　　考
収益			
1．会費	22,500,000	22,036,000	
(1)正会員会費	21,600,000	21,120,000	会員数90
(2)公共会員会費	120,000	120,000	会員数1
(3)海外会員会費	180,000	180,000	会員数3
(4)学術会員会費	600,000	616,000	会員数77
2．シンポジウム費	6,500,000	6,098,000	参加費、交流会費、展示会費等
3．講習会参加費	2,400,000	2,190,800	セミナー、寺子屋参加費
4．資料領布	50,000	6,600	講習会テキスト、年報等
5．機関誌頒布	800,000	798,410	燃料電池誌頒布、広告掲載収入
6．雑収入	4,400,500	5,506,992	預金利子、共催協力金
本年度収益計(A)	36,650,500	36,636,802	

（単位：円）

項　　目	予算額	決算額	備　　考
費用			
1. 会議・会場費	3,300,000	2,827,004	ｾﾐﾅｰ・講習会･ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ・各委員会 会場費他
2. 印刷製本代	1,740,000	1,438,690	機関誌、年報、予稿集他
3. 渉外費	1,850,000	1,507,680	賀詞交歓会費、ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ交流会費
4. 旅費交通費	1,200,000	859,624	委員会委員旅費、情報調査旅費、 学会･研究会参加旅費、職員通勤費他
5. 外注費	1,900,000	1,853,500	年報翻訳、ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑWEB申込ｻｲﾄ構築、 HPﾘﾆｭｰｱﾙ
6. 諸謝金	1,700,000	1,379,254	機関誌原稿料、講習会講師謝礼、 税理士謝礼
7. 諸会費	580,000	467,026	学会参加費、各種団体会費他
8. 新聞図書費	50,000	0	書籍代他
9. 事務用品費	140,000	122,712	複写代、事務用品
10. 消耗品費	100,000	89,363	消耗品
11. 通信運搬費	400,000	356,296	郵送代、電話料、Web管理費、 ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ使用料他
12. 支払手数料	550,000	539,029	振込手数料、保守料金、PayPal手数料他
13. 給料手当・賞与	14,800,000	14,253,001	職員給与・賞与
14. 臨時賃金	220,000	184,190	ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ ｱﾙﾊﾞｲﾄ雇用代
15. 法定福利費	1,720,000	1,648,709	社会保険料
16. 公租公課	330,000	303,200	法人税、消費税、印紙代
17. 福利厚生費	75,000	63,652	健康診断補助他
18. 借室費	4,140,000	3,900,096	家賃
19. 光熱費	300,000	261,238	水道光熱費
20. リース費	885,000	890,268	複合機、ｾｷｭﾘﾃｨｰｻｰﾊﾞｰ他
21. 賃借料	200,000	204,513	ﾊﾞｽﾁｬｰﾀｰ代
22. 事務所整備費	450,000	265,419	Zoom導入費用、PC購入、什器備品他
23.退職金	0	0	退職慰労金
24. 雑費	440,000	377,129	部屋清掃費、ごみ処理券、火災保険他、 寺子屋組立ｷｯﾄ購入他
25. 予備費	100,000	0	
26. 雑損失	0	4,300,000	HYPOTHESIS　XIX Hiroshima 開催費用 分担金
本年度費用計(B)	37,170,000	38,091,593	
本年度収支差額(A)−(B)	−519,500	−1,454,791	
前年度正味財産額(C)	65,043,321	65,043,321	
翌年度繰越正味財産期末残高 (A)−(B)+(C)	64,523,821	63,588,530	

貸借対照表

令和7年6月30日現在

（単位：円）

資産の部		負債および正味財産の部	
項　目	金　額	項　目	金　額
【流動資産】	**67,264,412**	**【流動負債】**	**5,891,882**
現金	80,083	前受金	4,864,000
普通預金	51,046,681	源泉税預り金	272,842
定期預金	15,700,000	住民税預り金	17,600
未収入金	43,500	未払消費税	228,000
前払費用	394,148	未払費用	501,440
		仮受金	8,000
【固定資産】	**2,216,000**	**【正味財産】**	**63,588,530**
敷金	2,000,000		
電話加入権	216,000	（内当期正味財産増加額）	63,588,530
合　計	**69,480,412**	**合　計**	**69,480,412**

財産目録

令和7年6月30日現在

（単位：円）

項　　目	金　　額	備　　考
資産の部		
【流動資産】		
現　金	80,083	手元現金
預　金	66,746,681	
（内　訳）		
みずほ銀行　神田支店	4,131,948	普通　主預金通帳
同　上	25,682,930	普通　燃料電池シンポジウム用通帳
同　上	16,493,369	普通　燃料電池講習会用通帳
同　上	5,700,000	定期　預金
三井住友銀行　神田支店	3,928,355	普通　会費振込用通帳
同　上	10,000,000	定期　預金
PayPal	810,079	決済サービス　海外取引用
未収入金	43,500	シンポジウム参加費
前払費用	394,148	会場費、家賃他
【固定資産】		
敷　金	2,000,000	事務所敷金
電話加入権	216,000	事務所電話　03-6206-0231 ファクシミリ　03-6206-0232
合　計	69,480,412	
負債の部		
前受金	4,864,000	令和7年度会費前受金
源泉税預り金	272,842	源泉所得税預り金
住民税預り金	17,600	
未払消費税	228,000	消費税
未払費用	501,440	会場費、出張旅費、消耗品購入費等
仮受金	8,000	返金分
合　計	5,891,882	
差引正味財産	63,588,530	

令和６年度事業報告・決算報告に関する監事の意見

令和６年度事業報告・決算報告について監査した結果、

適法かつ妥当であることを認めます。

令和７年８月６日

監事　小関　和雄

監事　横川　晴美

第２号議案

令和７年度事業計画の件

自 令和７年 ７ 月 １ 日
至 令和８年 ６ 月30 日

本年２月には、第７次エネルギー基本計画が策定された。これまで、2030年および2050年に向けた見通しは示されてきたが、第７次エネルギー基本計画においては2040年に向けた見通しが策定された。その中で、エネルギー自給率を3～4割程度にすることと、4～5割程度が再エネ電源で賄うことが示された。再エネの内訳は、23～29％程度が太陽光であり、4～8％程度が風力である。太陽光発電を全電源の23～29％程度導入するということは、例えば春や秋の晴天の日中には太陽光発電が日本の全電力需要を上回る発電をしている計算となり、太陽光や風力のような自然任せの再生可能エネルギーを大量導入するためには、電力を平準化する手段が不可欠であることを意味している。これは、電力の需要と供給の同時同量を実現するためには、特に再生可能電源の蓄エネルギーやエネルギー融通システムが電力の安定供給に欠かすことのできない重要な技術になっていることが想定できる。このような社会的背景を想定すると、揚水発電や蓄電池等による蓄エネルギーシステムと共に、水素エネルギーによる蓄エネルギーとこれを用いた燃料電池による電力調整システムが欠かすことのできない重要な役割を果たすと考えられる。

燃料電池発電システムは、その大きな特徴の一つであるスケールメリットが少ないことを考慮すると、より分散型発電やローカルグリッド用電源に向いた発電システムであると考えられる。また、電力調整により大きく貢献するためには、瞬時の負荷変動に対応可能な純水素燃料によって発電することが好ましい。更には、温室効果ガスの排出を伴わない方法で製造された水素である必要がある。以上の理由から、主として再生可能エネルギーに由来する水素が普及することが、燃料電池の更なる普及に繋がると考えられる。

一方、移動体においては電動化が進み、自動運転が一般的となり、特に自動車においてはカーシェアリングが普及していると想定できる。また、移動体電源は、大きな蓄エネルギーシステムを内蔵していることから、デマンドレスポンス（DR）の手段の一つとして利用することで平準化に貢献していることが想定できる。2050 年頃においては、系統の同時同量がより厳密に求められていると仮定すると、容量市場やネガワット市場がより重要な役割を果たしていると考えられる。燃料電池自動車においては蓄電池と水素・燃料電池を併せて大きな容量を有するエネルギーシステムを内蔵していることから、バーチャルパワープラント（VPP）とカーシェアリングが融合することで、市場インセンティブに基づく DR を活用した市場取引が活発化していると想定される。すなわち、系統に電力が余剰の場合には、蓄電池に充電することで上げ DR を、系統の電力が不足している場合には、燃料電池で発電した電力を放出する下げ DR 等が一般的に活用されていることが考えられる。

世界中で水素・燃料電池関連の技術開発および社会実装に向けた取組が大きく加速している中、大型トラックやバス、船舶、鉄道等、移動体用燃料電池の多用途展開と、より大型の移動体用として燃料電池への期待が高まっている。大型・商用モビリティ（HDV）用途としては、従来の乗用車等と比べて、より高い耐久性、作動温度の高温化、より長い航続距離や搭載性、コスト削減等が求められており、その目標達成のためには、従来にない非連続な技術開発も求められている。定置用燃料電池に関しては、カーボンニュートラルの観点から分散型の純水素型燃料電池システムが開発・販売されている。

日本の燃料電池・水素産業が、今後も継続的に成長できるよう、FCDICにおいては世界の最先端の燃料電池・水素分野の動向をタイムリーに発信して行けるよう、引き続き取り組みを実施していきたい。

今年度の活動の主なものは次のとおりである。

Ⅰ 活動計画

1 開催行事

1.1 総会･交流会､賀詞交歓会

令和7年度総会を令和7年9月10日（水）に、設立40周年事業を令和8年1月29日（木）に開催し、賀詞交歓会との併催とする。総会時には交流会を催し､設立40周年記念事業と併催する賀詞交歓会と共に会員相互の親睦を図る場とする。

第２号議案

1.2 第33回燃料電池シンポジウム

令和8年6月4日（木）、5日（金）にタワーホール船堀において開催の予定である。

1.3 研究会

講演会を年2回、見学会を年2回程度予定している。講演テーマ、見学場所等の選定は会員の要望を踏まえ、企画委員会にて検討していく。

1.4 セミナー・講習会

昨年好評を頂いた、水素製造・水素インフラ等の最新状況に関するセミナーを本年11月5日（水）に開催する。初心者向け講習会（寺子屋式講習会）については、年2回を予定している。

2　広報・出版

2.1 機関誌「燃料電池」の発行

燃料電池に特化した学術雑誌（年4回発行）として、内外の動向に応える内容でPDF版として発行を継続する。

2.2 2025年度版年報「日本における燃料電池の開発」の発行

日本における燃料電池の開発状況を、和文と英文で一冊に集約してPDF版として発行する。

2.3「FCDIC Report」の発行 海外会員向けの情報として、「FCDIC Report」の発行を継続する。

2.4 ウェブサイトの充実

FCDICのホームページに会員専用サイトを設け、機関誌や年報や研究会テキストのPDF版をダウンロードしていただき、新たに燃料電池・水素に関する「よろず相談窓口」を開設した。また、シンポジウムやセミナー等のタイムリーな情報発信の方法として今年度も見直しを実施する。

3　海外調査

重要度の高い国際会議に出席を検討し、燃料電池関連情報を機関誌等に報告する。

4　共催・協賛・後援

令和7年9月17日（水）～9月19日（金）、令和8年3月17日（火）～3月19日（木）と、千葉と東京で2回開催予定の国際水素・燃料電池展（H_2&FC EXPO）に共催機関として参加すると共に、展示ブースにおいてFCDICの活動を展示し広報する。その他の共催・協賛・後援についても、幹事会の承認の下、積極的に引き受ける。

5　夢の燃料電池１０ WG活動

50年後の燃料電池を考えるWGから名称変更し、本格普及に向けて引き続き開発が進められている燃料電池の夢の姿を議論しまとめる作業部会の実施を検討する。夢の燃料電池の姿（燃料電池を利用する上での水素を含む）をリストアップし、FCDICのホームページで公開している。このリストを多くの研究者に参考いただき、今後の研究開発の参考としていただくこととする。

6　グリーン水素研究会

（一社）日本プロジェクト産業協議会（JAPIC）が主催する水素サプライチェーン整備委員会に参画し、その動向を踏まえた上で、FCDIC独自のグリーン水素研究会の方向性を検討する。

7　顕彰制度

産業貢献賞、学術賞ならびに奨励賞の募集を7月～8月に行う。表彰式は第33回燃料電池シンポジウムでの挙行を予定している。

第２号議案

Ⅱ 予算の概要

再生可能エネルギーをベースとする水素エネルギーシステムの構築に向けた動きは世界的な潮流になりつつあり、特にヨーロッパにおいては、その動きがより加速しつつある。今後は内外の水素・燃料電池普及に向けた活動は更に活発化するものと期待される。FCDICとしても、今後水素分野に関わる情報発信により積極的に取り組んでいきたい。

本年度は昨年度より4社少ない86社の正会員数でスタートする。今年度は、例年並みの会員数やシンポジウム・セミナー等への参加者を期待して収入予算を積み上げ、37,022,000円の収入予算を組んだ。一方、支出については引き続き活発な活動を維持することと、会員サービスの充実を目指して、今後も対面とリモートの併用での情報発信を進めるための外注費と、40周年記念事業に関する渉外費・会議費、更に事務所整備費を計上し、前年度の予算をベースに検討を行い、総額 40,247,700円とし、3,225,000円の赤字予算とした。

令和7年度予算を別紙に示す。

令和7年度予算

自　令和7年7月 1日
至　令和8年6月30日

収支予算書

（単位:円）

項　　目	令和7年度予算額	令和6年度予算額	令和6年度決算額	備　　考
収入				
1. 会費	21,732,000	22,500,000	22,036,000	
(1)正会員会費	20,800,000	21,600,000	21,120,000	会員数86+途中入会
(2)公共会員会費	120,000	120,000	120,000	会員数1
(3)海外会員会費	180,000	180,000	180,000	会員数3
(4)学術会員会費	632,000	600,000	616,000	会員数76＋途中入会
2. シンポジウム費	6,500,000	6,500,000	6,098,000	参加費、交流会費、展示会費等
3. 講習会参加費	2,400,000	2,400,000	2,190,800	セミナー、寺子屋参加費等
4. 資料領布	50,000	50,000	6,600	講習会テキスト、年報等
5. 機関誌頒布	800,000	800,000	798,410	燃料電池誌頒布、広告掲載収入
6. 雑収入	5,540,000	4,400,500	5,506,992	預金利子、共催協力金等
本年度収入合計(A)	37,022,000	36,650,500	36,636,802	

令和7年度予算

（単位：円）

項　　目	令和7年度予算額	令和6年度予算額	令和6年度決算額	備　　考
支出				
1. 会議・会場費	3,000,000	3,300,000	2,827,004	ｾﾐﾅｰ・講習会･ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ・各委員会 会場費他
2. 印刷製本代	1,460,000	1,740,000	1,438,690	機関誌、年報、予稿集、パンフレット他
3. 渉外費	2,750,000	1,850,000	1,507,680	総会交流会、賀詞交歓会費、 ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ交流会費
4. 旅費交通費	760,000	1,200,000	859,624	委員会委員旅費、情報調査旅費、 学会･研究会参加旅費、職員通勤費他
5. 外注費	1,700,000	1,900,000	1,853,500	翻訳、ｳｪﾌﾞｻｲﾄ構築他
6. 諸謝金	1,500,000	1,700,000	1,379,254	機関誌原稿料、講習会講師謝礼、 税理士謝礼
7. 諸会費	300,000	580,000	467,026	学会参加費、各種団体会費他
8. 新聞図書費	10,000	50,000	0	書籍代他
9. 事務用品費	140,000	140,000	122,712	複写代、事務用品
10. 消耗品費	100,000	100,000	89,363	消耗品
11. 通信運搬費	400,000	400,000	356,296	郵送代、電話料、Web管理費、 ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ使用料他
12. 支払手数料	680,000	550,000	539,029	振込手数料、保守料金、PayPal手数料他
13. 給料手当・賞与	17,800,000	14,800,000	14,253,001	職員給与・賞与
14. 臨時賃金	220,000	220,000	184,190	ｱﾙﾊﾞｲﾄ雇用代
15. 法定福利費	2,300,000	1,720,000	1,648,709	社会保険料
16. 公租公課	700,000	330,000	303,200	法人税、印紙代
17. 福利厚生費	75,000	75,000	63,652	健康診断補助他
18. 借室費	3,950,000	4,140,000	3,900,096	家賃、更新料
19. 光熱費	280,000	300,000	261,238	水道光熱費
20. リース費	882,000	885,000	890,268	複合機、ｾｷｭﾘﾃｨｰｻｰﾊﾞｰ他
21. 賃借料	200,000	200,000	204,513	ﾊﾞｽﾁｬｰﾀｰ代他
22. 事務所整備費	500,000	450,000	265,419	Zoom導入費用、PC購入他
23.退職金	0	0	0	退職慰労金
24. 雑費	440,000	440,000	377,129	部屋清掃費、ごみ処理券、火災保険 寺子屋組立ｷｯﾄ購入他
25. 予備費	100,000	100,000	0	
26.雑損失	0	0	4,300,000	
本年度支出合計(B)	40,247,000	37,170,000	38,091,593	
本年度収支差額(A)−(B)	−3,225,000	−519,500	−1,454,791	
前年度繰越収支額(C)	63,588,530	65,043,321	65,043,321	
翌年度繰越収支額 (A)−(B)+(C)	60,363,530	64,523,821	63,588,530	

第３号議案

令和７年度　役員選任の件

Ⅰ 役員

	理事	岡崎　健	東京科学大学名誉教授	（代表理事候補）
	理事	佐薙 徳寿	東芝エネルギーシステムズ（株）	（副代表理事候補）
	理事	井上 雅之	（一社）日本ガス協会	（副代表理事候補）
	理事	羽藤 一仁	（一社）燃料電池開発情報センター	（常任理事候補）
	理事	佐藤 康司	ENEOS（株）	
	理事	原　達範	大阪ガスマーケティング（株）	
新	理事	安田 和明	（国研）産業技術総合研究所	
	理事	石田 政義	筑波大学	
	理事	麦倉 良啓	（一財）電力中央研究所	
	理事	小林　徹	東京ガス（株）	
	理事	雨宮 一樹	トヨタ自動車（株）	
	理事	梅田 実	長岡技術科学大学	
新	理事	黒羽 智宏	パナソニック（株）	
	理事	小山　茂樹	（株）本田技術研究所	
	理事	北川　雄一郎	三菱重工業（株）	
	監事	神谷 信行	横浜国立大学	
	監事	小関 和雄	元FCDIC 常任理事・前顧問	
	監事	横川 晴美	東京大学　シニア協力員	

Ⅱ 顧問　※顧問は役員ではございませんがご報告いたします。

太田 健一郎　横浜国立大学名誉教授

Ⅲ 役員（理事、監事）の新任、重任、退任、辞任、次回選任予定

＜新任＞
黒羽智宏【理事】、安田和明【理事】

＜重任＞
原達範【理事】、小関和雄【監事】

＜退任（任期満了）＞
辰巳国昭【理事】

＜辞任＞
可児幸宗【理事】

＜次回選任予定（令和８年度定時社員総会終結をもって任期満了）＞
岡崎健【代表理事】、佐薙徳寿【副代表理事】、井上雅之【副代表理事】、羽藤一仁【常任理事】、佐藤康司【理事】、石田政義【理事】、麦倉良啓【理事】、小林徹【理事】、雨宮一樹【理事】、梅田実【理事】、黒羽智宏【理事】、小山茂樹【理事】、北川雄一郎【理事】、神谷信行【監事】、横川晴美【監事】

以上